東海環状自動車道インター名は「土岐南インター」で

東海環状自動車道延長約160kmのうち東回りコースの豊田東JCTから美濃関JCTの73km（土岐市区間4.8km）は愛・地球博開幕の来年3月開通予定で工事が急ピッチで進められています。

その間にはJCT3ヶ所、IC9ヶ所、SA2ヶ所、PA2ヶ所が設置され、土岐市内では（仮称）土岐南インター、土岐JCT、五斗蔭PAが設置整備されています。

インター名称は日本道路公団が決定しますが、その名称の考え方やインター名称に関しては別掲のように、わかりやすく、簡潔で所在地を明確に示し、そしてインター名称は存する市町村名を用い、同一地域内に施設名が2つある場合は市町村名の後に東西南北を付することができるなどとしています。どこにも広域的な名称について触れていません。

これまで沿線自治体とは東海環状自動車道の計画

段階から現在まで建設推進に向けて広域的な連携と協力で促進してきました。

それは東海環状自動車道の建設に対する広域連携であって、インター名称そのものの広域協議はありませんでした。

今回のインター正式名称問題は、日本道路公団のインター名称等のルール、決議文の内容と建設計画から今日までの経緯、土岐市や市民等におけるさまざまな協力等々から、よもやインター名に多治見を加えるなどの考えは予想外のこととなりました。

県の折衷案「土岐南多治見」はインター所在地がより不明確となり、かえって利用者に混乱を起こすことが心配されます。

インター名称は、肅々と名称ルールの原則により導きだされるものであり、「土岐南インター」が最も適切であります。

日本道路公団におけるPA・SA・インター名称の考え方

一般的なPA・SA・インター名称を含めた包括的なもの

- ・名称は、わかりやすく簡潔なものであること。
- ・名称は、お客様の利便を考慮して所在地を明確に示すものであること。
- ・名称は、道路標識の表示において判読しやすいものであること。
- ・名称は、他の地名・施設名と混同をきたさないものであること。

インター名称に関して

- ・インター名称は、存する市町村名を用いること
- ・インター名称は、同一地域内に同一施設名が2つ以上ある場合には、市町村名等のあとに東西南北を付することができる。

東海環状自動車道（仮称）土岐南インターチェンジの名称に関する決議

土岐市におけるまちづくりの中核をなす土岐プラズマ・リサーチパーク内には、東海環状自動車道（仮称）土岐南インターチェンジの整備が進められており、来年3月の自動車道開通とインターチェンジの供用開始を間近に控え、地元として大きな期待を寄せているところである。

市内におけるこの事業は、道路用地の問題や建設にかかる諸問題（残土処理など）に対して、市当局をはじめ、土岐口財産区、多くの地権者、地域住民などが総力を結集して支援、協力してきており、土岐南インターチェンジの名称がそのまま正式名称になるものと理解している。

しかしながら、インターチェンジの正式名称決定を前にして、一部から異議をはさむ動きがあり、利用者の誤解を招くが如き名称が取り沙汰されていることは誠に遺憾である。

本市議会としては、土岐南インターチェンジが、着工以来すでに市民権を得た名称であること、土岐プラズマ・リサーチパークの中心に位置していること、中央自動車道・土岐インターチェンジに対応するわかりやすい名称であること、さらに一般県道においても土岐南インター線が名称となっていることなどから、正式名称となることは当然の条理であると考えている。

よって、本市議会は市民の総意として、正式名称を「土岐南インターチェンジ」に決定されることを強く要望するものである。

以上、決議する。

平成16年9月27日

土岐市議会